
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2008年1月~2月)

気象庁



図 1. 2008年1月~2月に目立った活動があった火山

雌阿寒岳 (43°23'12"N, 144°00'32"E)

1月9日夜から10日にかけてボンマチネシリ火口浅部を震源とする微小な火山性地震が多発した。その後、地震回数は減少し、2月上旬頃には地震多発以前の状態に戻った。

この活動は、2006年3月のごく小規模な噴火に先行した活動に比べると、地震の振幅は小さく、火山性微動も観測されなかった。また、噴煙の状況や地殻変動にも変化はない。

三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

1月7日06時54分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上300mまで上がり、南東に流れるのを観測した。7日午前中に行った現地調査では、島の東から南東の範囲(山頂火口から約3km)で微量の降灰を確認した。この噴火に伴って、振幅の大きなやや低周波地震(約3~10Hzが卓越する地震)と空振が観測された。三宅島で噴火が発生したのは2006年8月23日以来である。

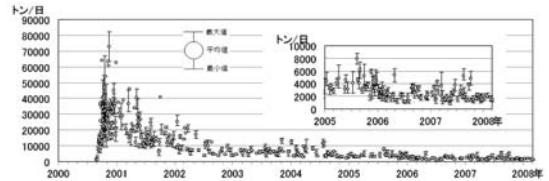


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月~2008年2月)

期間中、島内でDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測を4回行った。その結果、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,100~2,500トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いていた。また、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがやや低周波地震(約3~10Hzが卓越する地震)で、高周波地震(約10Hz以上が卓越する地震)も時々発生した。震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される。低周波地震(約3Hz以下が卓越する地震)火山性微動は観測されなかった。

山頂火口の噴煙高度は火口縁上100~300mで推移した。

全磁力観測では、火口直下の熱帯磁が鈍化しながらも続いている。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮と深部の膨張が継続している。

硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの継続している。

福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

海上自衛隊及び第三管区海上保安本部が行った上空からの観測によると、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

孤立型微動は2007年8月頃より多い状態で経過しており、1月29日以降はさらに増加し一日あたり300回を超える状態となっていたが、2月上旬以降はやや減少している。

2月18日に中岳第一火口でごく小規模な土砂噴出が



図 3. 桜島 2月6日11時25分の爆発的噴火（黒神河原（昭和火口から東約3km）にて撮影）

観測され、また中岳第一火口南側火口壁の一部の噴気孔では引き続き赤熱現象が確認されたが、中岳第一火口の湯だまりの湯量や表面温度に変化はない。

期間中、DOAS（紫外線差分吸収分光計）を用いたトラバース法による火山ガス観測を3回行った。二酸化硫黄放出量は一日あたり200～600トンで、やや少ない状態が続いている。

桜島（31°34'38"N, 130°39'32"E（南岳））

昭和火口では、2月3日00時39分に火口付近に噴石を飛散する程度のごく小規模な噴火が発生し、同日10時18分と15時54分には爆発的噴火が発生した。その後、昭和火口ではごく小規模な噴火を繰り返していたが、6日10時33分と11時25分に再び爆発的噴火が発生した。2月3日10時18分の噴火では噴石が4合目（火口から約1km）まで飛散し、同日15時54分の噴火では火砕流が火口から東に約1.0kmまで流下した。6日11時25分の噴火では火砕流が火口から東に約1.5kmまで流下し、噴石が5合目（火口から約500m）まで飛散した。昭和火口では2月6日11時25分の噴火以降は、噴火の発生はない。

南岳山頂火口では、1月7日に爆発的噴火が発生したほか、ごく小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動も1月中旬以降少ない状態で経過している。

島内のDOAS（紫外線差分吸収分光計）を用いたトラバース法による二酸化硫黄放出量は、昭和火口の噴火活動中は一日あたり2,600～3,800トンと、それまでの一日あたり1,000トン前後から増加したが、2月7日及び2月13日の観測では一日あたり800～1,200トンと2月3日の噴火以前の状態に戻っている。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による膨張が続い

ている。

薩摩硫黄島（30°47'35"N, 130°18'19"E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くがB型地震で、A型地震も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

諏訪之瀬島（29°38'18"N, 129°42'50"E（御岳））

爆発的噴火が時々発生したほか、小規模な噴火も発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約4km）で降灰が時々確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

（文責：気象庁地震火山部火山課 加藤幸司）

○教員の公募について

【岡山大学大学院自然科学研究科】

1. 職名・人員：教授または准教授・1名
2. 採用分野：地球システム科学
3. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
4. 所 属：岡山大学大学院自然科学研究科先端基礎科学専攻地球システム科学講座（理学部地球科学科兼任）
5. 応募資格：